

令和3年度大学院学際情報学府 秋季学位記授与式

2021年9月24日、学際情報学府の秋季学位記授与式が福武ホールラウンジシアターで開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響をうけ、一部の修了者と教員だけが集まり、その様子がオンラインで生配信される形式となりました。修士課程修了者15名と博士課程修了者5名に、山内祐平学府長と前田幸男専攻長より祝辞が贈られました。



令和3年度 秋季入学式・ガイダンス

2021年9月29日、学際情報学府の秋季入学式および入学ガイダンスがオンラインにて行われました。修士課程入学者15名と博士課程入学者6名が出席し、山内祐平学府長と前田幸男専攻長より祝辞が贈られました。

合格発表

2022年2月15日、令和4年度修士・博士課程冬季入試(2022年4月入学)の合格者発表がありました。出願者数は修士課程127名、博士課程48名でした。最終合格者数は、下記の表のとおりです。

冬季入試・修士課程合格者数		冬季入試・博士課程合格者数	
社会情報学コース	6名	社会情報学コース	11名
文化・人文情報学コース	9名	文化・人文情報学コース	10名
先端表現情報学コース	8名	先端表現情報学コース	6名
総合分析情報学コース	6名	総合分析情報学コース	9名
合計	29名	合計	36名

記事: 柳志岐(博士課程・編集部)

BOOKS



『災害情報 — 東日本大震災からの教訓』

関谷直也(著)
発行年月: 2021年9月
出版社: 東京大学出版会

本書は、東日本大震災を中心に、避難の問題、集合行動、メディア研究、東日本大震災以降の近年の災害情報の変化と受容の課題について、社会情報学、社会心理学の立場から体系的記述を試みたものです。コロナで出張もできず、宴会もできず、その辛さをぶつけたら、予定の倍の640頁になり、図らずも、流行りの『鈍器本』になりました。結果、高額になってしまい売れません。皆さんお読み頂ければ幸いです。(関谷直也准教授)



『だれでもデザイン — 未来をつくる教室』

山中俊治(著)
発行年月: 2021年11月
出版社: 朝日出版

本書は高校生のためのデザイン授業の記録をもとに書かれました。装飾の技法としてのデザインではなく、デザインという思考方法を伝えるものです。「なぜか気になる」を見逃さない。観察のためのスケッチ。アイデアの確率を上げる方法。ともかく作ってみる。他人の評価の活用法…など、誰もが未来を創造するための基本が書かれています。(山中俊治教授)



『視覚化する味覚 — 食を彩る資本主義』

久野愛(著)
発行年月: 2021年11月
出版社: 岩波新書

現代の色彩豊かな視覚環境の下ではほとんど意識されないけれど、私たちが認識する「自然な」色の多くは、経済・政治・社会の複雑な絡み合いの中で歴史的に構築されたものでもあります。食べ物の色に焦点を当て、資本主義の発展とともに色の持つ意味や価値がどのように変化してきたのかを、感覚史研究の実践により紐解きます。(久野愛准教授)



『検証 コロナと五輪 — 変われぬ日本の失敗連鎖』

吉見俊哉(編)
発行年月: 2021年12月
出版社: 河出書房新社

コロナ禍によって、1年の延期が決定した東京五輪。開催までの騒動は、私たちにあらためて「五輪とは何か」ということを考えさせる契機となりました。本書は64年五輪の成功体験とそれに囚われた2020年五輪の失敗をメディア論的に分析したものです。五輪が持つ根源的な問題を浮かび上がらせ、日本社会の変容を描き出しました。(加藤聡特任研究員)